

庶民の暮らしと市場

私の住む神戸は国際都市でもあって世界の料理が楽しめる。中国、韓国、ベトナム、タイ、インド料理から、フランス、イタリア、スペイン、スイス、ドイツ料理……。私も人通りは食べてみたが、それぞれのお国柄の特色があり楽しみながら美味しく頂いている。

シンガポール料理を是非食べてみたいと思っていたが、そういった料理がないことを知った。それは建国してまだ 44 年しかたっていないからなのであろう。これまで多民族国家として国際色豊かな国として発展。人口の多さ（中華系 76%）に比例して何とんでも中華料理が一番メジャーな食べ物であるようだ。



シンガポール・チャンギ空港に着いてまず中華。そして帰りの空港でも中華であった。滞在中もほとんどが中華料理系であったように思う。シンガポールは歴史を振り返ってみると路上屋台（公園、空地）の食事が多く見られたが、禁止されてより集合屋台街が形成されている。それがホーカーズセンターである。街のいたる所で多くの買い物客と食事をとる人で賑わっていた。

シンガポール人には食べることを道楽にしている人が多いようだ。三食の食事は勿論のことランチ、ティータイム、サパー（夜食）も楽しんでいる。それも自宅で料理して食べる人は稀で、そのほとんどが近所で気軽に食事が出るホーカーズセンターに集い合ってくる。共稼ぎの家庭が多いこともあって外食文化がこの国にねずき、誰もが美味しく安く食事できる屋台がますます増えている。メニューも豊富で私もいろいろと食べてみたが、庶民の味は実に美味しく安くそして手軽に気軽に購入できることが大きな魅力かも知れない。

撮影 2014 年秋

